



識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えする当連載。第11回はゲーリー・プレーヤーのお話です。

日本に思い入れがあり、日本のファンが多い。

世界中のゴルフトーナメントに赴く仕事柄、好きなゴルフファーは誰？ とか最強の選手は？ などと聞かれる事がよくあります。技術、体力、人柄など様々な視点から見ても一番すばらしいプロゴルフファーは南アフリカのゲーリー・プレーヤーだと思っています。

ゲーリーが3回目のグリーンジャケットを手にした1974年のマスターズ。優勝を決めた翌日の早朝、私がクラブハウスへ関係者に挨拶に行つた時にちょうど息子さんと一緒に練習場で球を打っていたので、「おめでとう！」と声をかけたら練習を中断してわざわざ我々の方に来て握手してくれました。それが、私の初めてのオーガスタをより思い出深いものにしたゲーリーとの出会いでした。

その後、シニアプレーヤーとして活躍していた頃には当社が携わるシニアトーナメントに出場され、直接話をするチャンスが何度もありましたし、毎年マスターズだけでなく、ロレックスのイベントなどで一緒にいる事もあります。いつも「プレーヤーさん」と声をかけるのですが、日本語で「ケンキね?」とか「ガンバッテネ」とか強い握手をしながら必ず答えてくれます。東日本大震災の年のマスターズでは、日本に向けてメッセージの収録に応じてくれました。日本に思い入れが強く、日本のファンが多いのもうなずけま

す。

弱きを助ける
中世の騎士のイメージ。

プロ選手として60年近く活躍しているプレーヤーですが、ミスター・フィットネスといわれるほど、いまでも体のケアは怠っていません。あまり知られていませんが、長いキャリアの中で怪我などのトラブルで試合を棄権した事がないそうです。彼の強靱な身体は日頃のトレーニングと努力の賜物でしょう。先日話した際には近頃怪我などで選手の欠場が増えている事が話題に上りましたが、彼自身、80歳を前にして毎日スクワットや腕立て伏せなどをやっ

ていながら、過剰な筋トレに対しては疑問符を投げかけていました。「最近の選手はゴルフに必要な筋トレにより、バランスが悪くなり怪我をするのでは?」とのコメントでした。日本国内のツアーでも選手のために移動式のジムが各トーナメントに設置され、トレーナーと共にサポートしていますが、一般のジムにあるウエイトトレーニング用のマシンは使い方によってはゴルフの腰に負担がかかってしまう事もあるそうです。ゴルフには体幹のトレーニングが大切なのだとよく言われますが、ゴルフの目指す体はアメフトやラグビーの選手のような筋肉ではなく、足、腕、コアの筋肉に特化するべきだとこの

Vol.11

最強のプロゴルファー

現在でも 体のケアを怠らず 愛に溢れた強きプロ ゲーリー・プレーヤー



と。確かに彼の現役の頃の体型は漫画のポパイのような感じで前腕と太モモが鍛えられていました。

プロゴルファーやゴルフ場のデザイナーとしての仕事以外ではプレーヤーの活動はあまり知られていませんが、自らチャリティを立ち上げて、南アフリカだけでなく世界中の恵まれない子供達の支援をしており、教育やスポーツが楽しめるような環境作りをしています。彼は祖国で母を早く亡くし、鉱山関係の仕事をする父に育てられただけに、苦労を知っているんですね。子供の時にお父さんがローンでゴルフクラブを買ってくれたと言っていました。苦しい環境で育つたからこそ、人助けの気持ちは大きいのかも知れません。彼のチャリティやマネージメントをしている会社はブラック・ナイトと言う名前です。ナイト、すなわち騎士と言う訳ですが、弱きを助ける中世の騎士のイメージですね。

ゲーリー・プレーヤーは「心技体」すべて揃った最強ゴルフアーだと思っています。



ゴルフビジネスのプロフェッショナル
神野方仁 (じんのみちひと)

1956年生まれ。テレ・ブランニング・インターナショナル株式会社・代表取締役社長。国内外の様々なスポーツビジネスに関わり、中

でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中
Fast Track Michi's Diary www.tpi-j.co.jp/diary/index.html

イラスト/ソリマチアキラ